

里親それぞれの物語



Story 1

40歳代夫婦、2人暮らし
子育て経験ゼロで小学生の里親スタート！
迎えた子どもの気持ちに悩んだ日も……

Profile

40歳代共働き夫婦。子育て経験なし。初めは週末里親（週末や夏休みなど休日だけ子どもと過ごす里親制度）からスタート。

子育ての経験が無い状態で3人生活がスタート。家中に落書きしたり、学校のプリントを捨てたりするなど……こんなはずじゃなかったと思う日も。子どもに後々聞いてみると、自分も不安な気持ちだったとのこと。そういうことだったのか！
それからは子どもがする一つ一つのことに「ありがとう」と笑顔で伝えてみることにしました。今ではその子も高校生。まだまだ賑（にぎ）やかな日々は続きます。



Story 2

実子4人と里子の共同生活!?
「里親って大変？」いいえ、
それ以上に楽しさ更新中！

Profile

40歳代夫婦。自営業、実子3歳、5歳、7歳、10歳。養子縁組が決まるまでの養育里親として、主に乳児を養育。

まるで本当のきょうだいのような大家族生活。たまにおもちゃの取り合いで喧嘩（けんか）も。そこは分け隔てなくカミナリを落とします(笑)。
里子とお別れするときには、嬉（うれ）しさと寂しさと両方の気持ちがあります。まれに大きくなった姿を見せてもらえることがあり、家族みんなで思い出話に花を咲かせることも。
現在も新たな里子を迎えて、里親継続中です！



Story 3

近所のシングルマザーが長期入院!?
迎えた中学生は、やがて**将来の夢**を語ってくれました！

Profile

50歳代共働き夫婦。実子は大学生、高校生、中学生の3人で、末子は現在中学校3年生。継続して中学生・高校生を中心に里子を受け入れ。

実子の同級生のシングルマザーが救急搬送され長期入院。同級生は親族も頼れず卒業を前に児童養護施設へ行くことに……私の家庭で受け入れたい！
「自分にできることがあるなら」との思いで、その子を迎えました。実親はその後死去しましたが、本人はデザインの専門学校への進学を希望し、夢に向かって勉強やアルバイトに励みました。将来の夢を語ってくれた日は忘れられません！



新しい「家族」のカタチ



「養子縁組」と「里親」、何が違うの？

いろいろな事情で、家庭生活を送ることができない子どもたちを自分の戸籍に入れ、法的な親子関係をつくり、家庭生活を送れるようにする制度が(特別)養子縁組制度です。
一方で、**里親制度**は、里親と里子に法的関係はなく、一時的に家庭内で子どもを預かって養育する制度で、諸手当や養育費などが公的機関から支給されます。

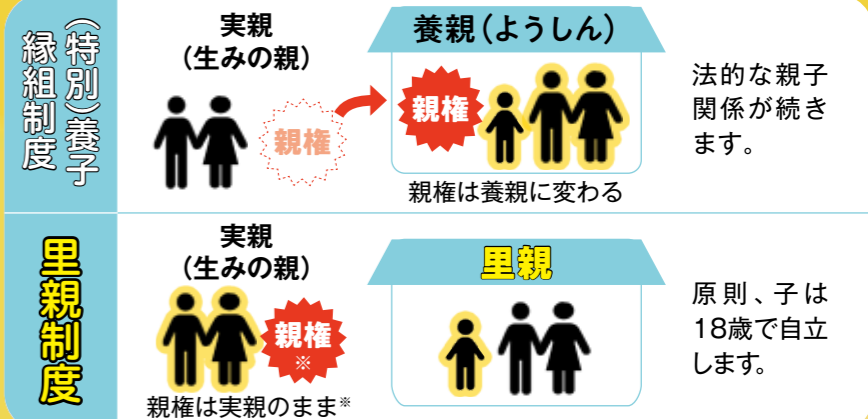
子どもには家庭生活の経験が必要です！
「法的な親子関係」をつくる養子縁組制度だけではなく
「できる範囲から関わってみる」で
スタートできる里親制度を考えてみませんか？

大阪府で家庭生活を必要としている子どもの数

約 **1,200** 人



※社会的養護を必要とする児童の状況
令和7年3月「府子ども計画」より



※実親がいない・分からない子どもは児童相談所長が親権代行者になることがあります。

[特集]

「里親制度」

さ
と
お
や

ご存じですか？

HP 26686
府子ども家庭センター(0828・0161)
市子どもを守る課(0800・70062)
取材協力(社福)大阪水上隣保館 里親支援センターおひさま

